

## 木造枠組壁工法施工の手引き（8）

### 16．床仕上げ材（§20）

床仕上げ材には、丈夫さ、保守の容易なことなどの他に、価格、居住性、美観などの面でも用途に応じて要求される項目が多い。

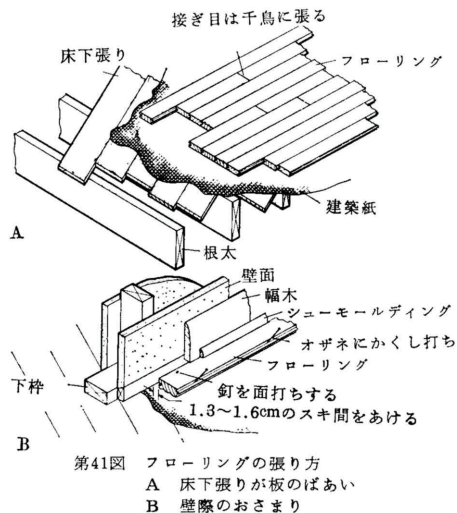
一般に広く使用されている床仕上げ材には、針・広葉樹のフローリング、乱尺幅の厚板、ブロックフローリング（パーケットフローリング）、パーティクルボードのタイル等の木質系の他に、リノリウム、アスファルト ゴム、ビニール等のシート状、あるいはタイル状のものや、陶器タイル、カーペット等がある。

#### 16.1 木質フローリング

厚さ2.0cm、幅5.7cmのサイズでサネ加工したものが最も広く使用されているが、床下張りの幅方向のつぎ目がブロック材で裏打ちされているか、又は厚い床下張りをを用いているような剛性が高い床のばあいには厚さ1cm、幅5cmのサイズのものも用いられる。これらの他にサネ加工していないものやブロックフローリング等がある。

フローリング張り工事は、内壁や天井の塗装やシックイ仕上げが乾燥し、窓や外装ドアの取り付けや、幅木、回り縁やドア枠以外の内部造作が終了した後におこなう。

床下張りが板のばあい、床下張りのレベルを出して



からその上に吸音フェルトや比重の大きい建築紙を張る。このフェルトや建築紙はほこりや音の透過をある程度おさえ、クロースペース式のばあい空気の流れを防ぎ床の保温性を増すのに効果がある。

根太の位置を建築紙上にチョークで印し、釘打ちのためのガイドにする。

床下張りが合板のばあい、一般に建築紙等は不要である。

フローリングは、根太に直角に張るのが一般的である。壁際ではフローリングの膨張を逃がすため1.3~1.6cmの隙間をあける（第41図B）。

フローリングは吸・脱湿による狂いを防ぐため、乾燥した天候の時、現場へ搬入し家の中でも最も暖かくて乾燥した所に置いておかなければならない。この間に吸湿すると施工後、暖房が入る季節になるとフローリングにスキ間が生ずる原因となる。

フローリングの「キシミ」は通常、隣接し合う板が動くことが原因で、a) 床根太の剛性不足、b) サネのはめ合いが悪い、c) 釘の効きが悪いことなどによっておこる。「キシミ」を最小限におさえる方法としては、適正な釘打ちと、根太の含水率が12%以下になるまでフローリングを張らないことである。

フローリングを張る時、床下張りに釘打ちするだけでなく、床下張りを通して床根太に釘打ちすることが必要である。

厚さ2.0cmのフローリングには8ペニーフローリング釘を、厚さ1.25cmのものには6ペニーフローリング釘、厚さ1cmのものには4ペニーフローリング釘をかくし打ちするのが一般的であるが、リング釘やラセン釘はさらに効果的である。

壁際の最初のフローリングはメザネの溝のすぐ内側に釘を表面打ちして根太にとめるが、幅木やシューモールディングで隠れるようになるべくへりに打つ。また同時にオザネにも釘打ちする（第41図B）

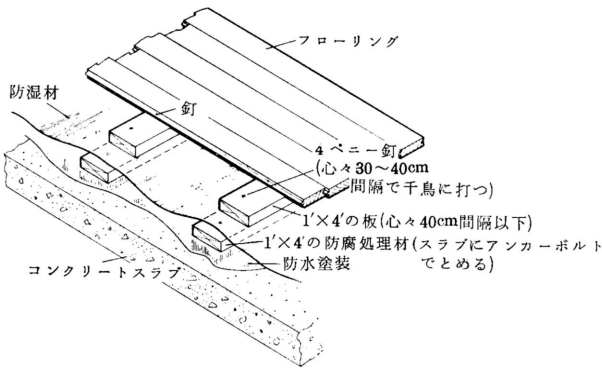
壁際から二番目以後のフローリングでは、隣接する

フローリングの長さ方向のつぎ目が連続しないように千鳥に張る。

反対側の壁際の最後のフローリングも、壁から1.3～1.6cmの隙間を明け、巾木やシューモールドイングで隠れる位置に釘を面打ちして根太にとめる。

コンクリートスラブの上にフローリングを張るばあい、地中の水分や蒸気の移動を防ぐため、しっかりした防水層を作ることが重要である。

スラブの下に防水層がないばあいのフローリングの張り方を第42図に示す。



第42図 コンクリートスラブ上のフローリング

その他、ブロック（パーケット）フローリング、合板フローリング、パーティクルボードタイル等があり、釘や接着剤により張るが、施工法や下地の処理方法などについては製造業者の指示にしたがうことが必要である。

### 16.2 弾性フロアー材

リノリウム、ビニール、ゴム、コルク、アスファルト等の弾力性のある材料で作られたシート状やタイル状の床仕上げ材である。

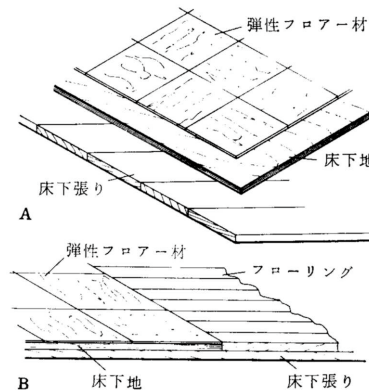
これらの材料の仕上りは下地の平面性に大きく影響されるので、床下張りが板のばあい弾性フロアー材を直接張ってはならず、合板、パーティクルボードやハードボード等による床下地を併用しなければならない。これらの合板・パーティクルボードは、床下地用として標準化されたものを入手出来る（第43図）

一般には床下地材として厚さ1.0～2.0cmのものをを用いる。

また床下張りと床下地を兼ねる合板パネルも出回っている。これはさね加工された合板で表面が平滑になるように節やくされ等の穴は埋木されたものである。

これらの下地材を根太に釘打ちした後で、サンダーがけをして表面を平滑にする。また弾性フロアー材を張った後、根太や下地材が収縮して釘の頭が浮き出て来ないように、含水率を使用条件の平均値に近い状態にしなければならない。

コンクリートスラブに弾性フロアー材を直接張るときは、第5図（6月号）に示すようにコンクリートス



第43図 弾性フロアー材の張り方  
A、床下張りが板のばあい  
B、弾性フロアー材とフローリングを併用するばあい

ラブの下に防湿材を入れて地中の水分の移動を防がねばならない。

コンクリートスラブの表面は出来るだけ平滑に仕上げ、コンクリートが完全に乾いてから弾性フロアー材を張ることが重要である。

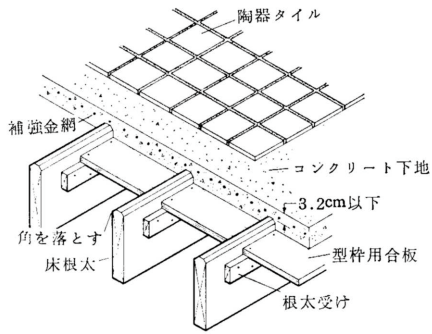
接着剤・施工法等はメーカーの指示に従う。

### 16.3 陶器タイル

浴室、洗面所、玄関等に広く用いられ、セメントモルタルと接着剤による二通りの張り方がある。

セメントモルタルによる方法は第44図に示すように金網やメタルラスで補強した、厚さ3.2cm以上のコンクリート下地が必要である。

接着剤による方法では、メーカーの指定する接着剤を使用する。



第44図 陶器タイルの張り方

床根太の上にタイルを張る時は、下地として厚さ19mmの耐水合板を釘打ちして用いるとよい。

### 17. 内装用ドアと内装用トリム(§21)

幅木や回り縁などの内装用トリムや、戸枠や内装用ドアなどは、床仕上げが終わってから取付けることが望ましい。

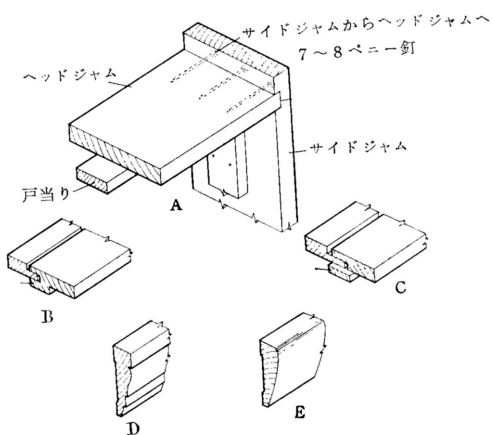
#### 17.1 ドア周囲の仕上げ

内装用ドアのため壁枠組に作られた開口部は、ドアの高さより7.5cm高く、ドアの幅よりも6.3cm程広く作るのが一般的である。

こうしておけば、ドア枠をはめ込んだあと鉛直および水平出しをする空間が出来る。

内装用のドア枠は一般に、縦枠(サイドジャム)と上部の枠(ヘッドジャム)と戸当りで構成される。

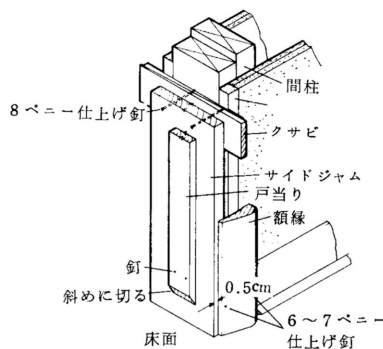
一般のドア枠では第45図Aに示すように、ジャムは



第45図 ドア枠の構成部品

一枚の板で作られ、その幅はシックイ壁用には13.3cm、1.3cm厚の乾式壁用には11.7cmのものが標準的であるが、B、Cに示すような2枚あるいは3枚の板で作られているものもあり、壁の厚さに応じて調節が可能である。メーカーによってはドア枠にドアを取り付けた状態で販売しているものもあり、現場では額縁をつけるだけでよい。

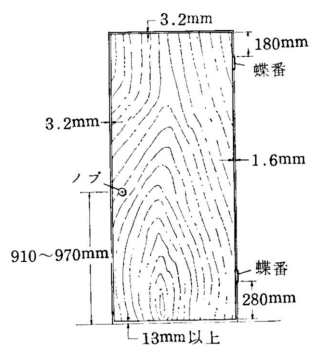
額縁はスタイルに応じて幅が5.7~8.9cm、厚さが1.3~1.9cmのものがある。その例を第45図D、Eに示す。



第46図 ドア枠のおさまり

ドア枠を開口部に取付ける時は、第46図に示すように先ず片側のジャムと間柱の間にクサビを高さ方向に4~5箇所差し込んで鉛直を出し、その上から8ペニーの仕上げ釘2本で釘打ちするが、1本の釘は戸当りで隠れる位置に打つ。次に反対側のジャムもクサビを用いて釘打ちする。

額縁は6~7ペニーの仕上げ釘2本づつを40cm置

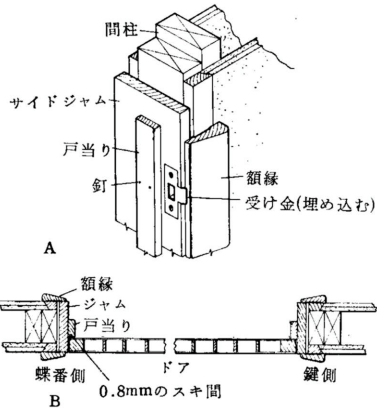


第47図 ドアのクリアランス

きに打ち、ジャムと間柱の両方にとめる。額縁は充分乾燥したものをを用いることが重要である。また額縁はジャムの面より約5mm離して取付ける。

ドアを取付けるばあい、一般に第47図に示すようなクリアランスをとることが推奨されている。

戸当り、受け金等の取付けの例を第48図に示す。

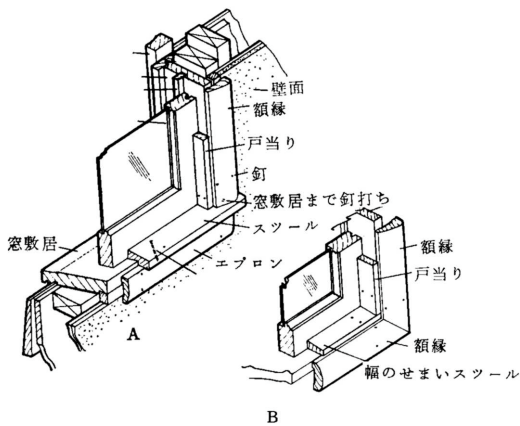


第48図 ドア取付け方

### 17.2 窓周囲の仕上げ

窓の室内側周囲の仕上げはドアのばあいとほとんど同じである。

上げ下げ窓の仕上げの例を第49図に示す。



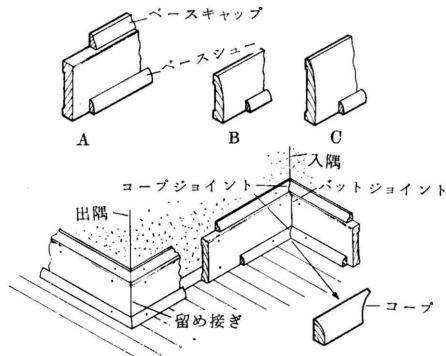
第49図 窓周囲の仕上げ

- A, エプロンとスツールを付けるばあい
- B, 周囲を額縁で仕上げるばあい

窓の額縁はドアのばあいと異り、ジャムの面と合わせて取付け、その合せ目を戸当りで覆うようにする。

### 17.3 幅木、回り縁の取付け

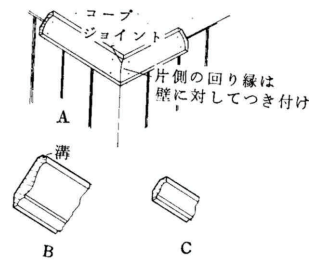
一般的な幅木のタイプとその取付け方法を第50図に示す。幅木にはベースキャップを併用するものとしなものがある。



第50図 幅木のタイプと取付け方

幅木は8ペニーの仕上げ釘2本で各間柱に釘打ちされる。ベースシューは長い釘でサブフロアに釘打ちするが、幅木に釘打ちしてはならない。これはもし根太が収縮してもベースシューと床仕上げ材の間にすき間を作らないためである。

石膏ボードなどの乾式壁のばあい、天井と壁の取り合い部の仕上げのために回り縁を用いる。



第51図 回り縁の種類と取付け方

- A, 入り隅に取付けるはあい
- B, 溝付回り縁
- C, 小型の回り縁

回り縁のタイプとその取付け方法を第51図に示すが、Bのような溝付の回り縁は、天井のシックイの仕上げが平滑でない時や、天井と回り縁の色を変えて塗装する時には便利である。

石膏ボードで壁も天井も仕上げる時はCのような簡単な小型の回り縁がよい。

回り縁は壁枠組の頭つなぎに釘打ちする。

(つづく)